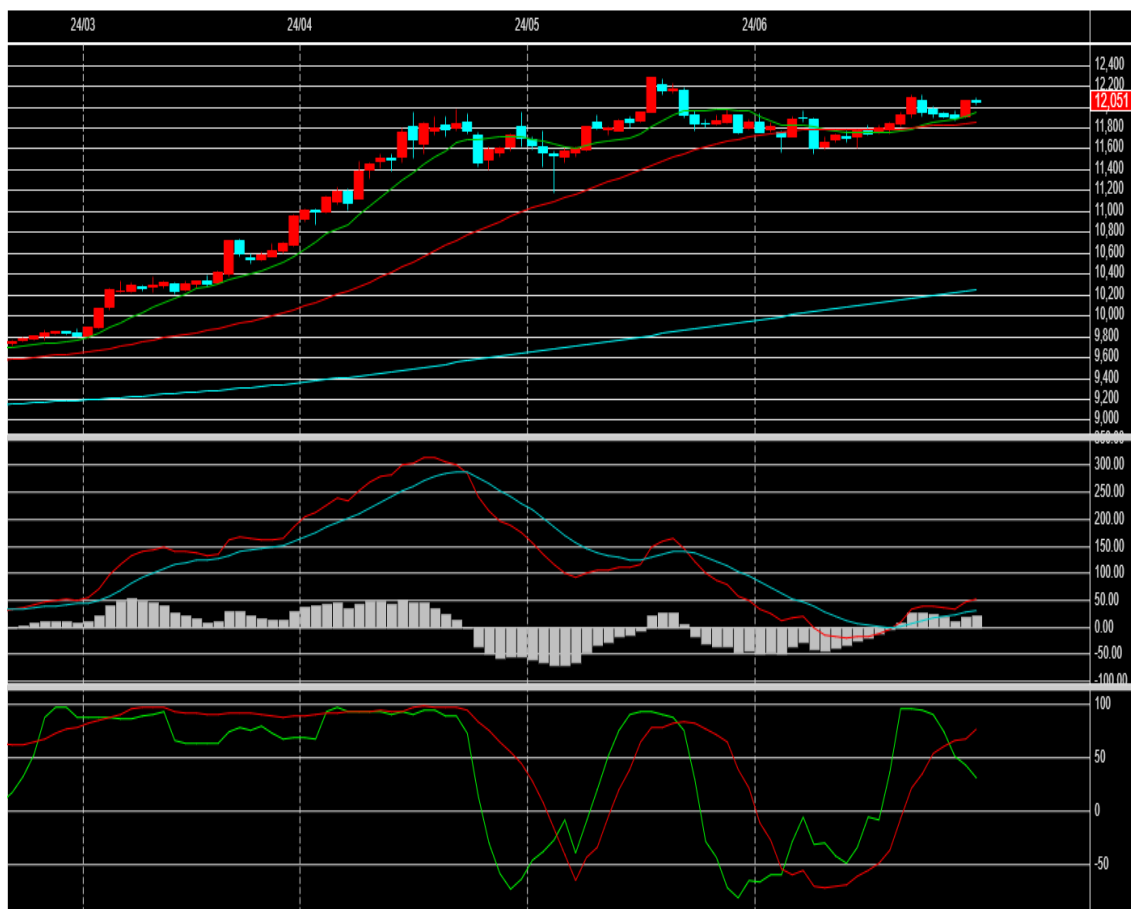


## <金標準、PCE デフレーターを受けても伸びを欠く・・・>



(出所：オアシス)

週末に FRB が重要視するインフレ指標である PCE デフレーターを発表を控える中で、様々な経済指標が発表されている。特に第 1 四半期実質 GDP・確報値では 1.4%となり、個人消費は前月の 2%から 1.5%へ低下、また週間新規失業保険申請件数では継続受給者数が前週の 182.1 万件から 183.9 万件へ増加するなど雇用情勢でも過熱感がなくなり、また中古住宅販売成約指数でも前年比で前月の-0.8%から-6.6%へ減少するなど金利の高止まりが悪影響を与えるなど景気抑制を示す内容となっている。また週末の PCE デフレーターでも前月比で 0%へ低下、コア前年比も 2.6%へ低下するなど、インフレ抑制を示す内容となっている。しかしデーリー・サンフランシスコ連銀総裁は金利を引き下げるのが適切かを判断するのは「時期尚早だ」と述べるなど、FRB 当局者は慎重な姿勢を見せている。特に 161.26 円まで円安が進む動きを見せたが、米国大統領選やフランス国民議会選を控え逃避の動きに高値が抑えられており、12000 円台は目先重たい水準に思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD は **MACD** が切り上げだし、**シグナル**も切り上げている。RCI は**短期**が下げながら、**中期**も切り上げており、オシレーターは戻り売り基調へ移行する動きに思え、飛び付き買いは避けた方が無難に思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,530,000 円(2024 年 7 月 1 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2024 年 7 月 1 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>